

古街道通信

発行 者：古街道PJ事務局
 発行 日：令和5年2月吉日
 発行責任者：朝倉 俊昭

社清明南

冬季期間は雪のため登山道等の整備は休止しています。その代わりに、しゃくり滝とそれにまつわる泰澄大師のお話をしたいと思います。

しゃくり滝

今回は、城山登山道（合谷ルート）の中でもひととき興味深い場所である、沢出合いの下流にある『しゃくり滝』についてお話します。



古街道PJ会が、合谷ルートの検討のために城山山中の獣道を登って行くと、“さわさわ”と水の流れる音が聞こえたことから、半信半疑でその方に向かって行くと、そこには、「ここが福井市内であることを感じさせない」くらいりっぱな滝が現れました。この場所に近づくのは大変難しかったのですが、どうしても滝を見上げることができる場所を作りたいとの思いから、岩を削り大木を切り倒し、それを使って丸太橋を渡して、滝を見つけてから2年後にようやく私たちの思いを叶えることができました。その後、落石等があって、この沢周辺の整備には大変時間がかかりました。

ある年のこと、社南地区お宝散策コースで沢出合いの場所に来た至民中学校の生徒から、この滝の名前を聞かれたのですが、名前がわからなかったことから調べてみました。

その昔、城山中腹に泰澄大師が建立した『落野寺』という立派なお寺があり、その近くには滝がありました。この滝で大師は修行を行い、国家長久を祈り衆人快樂の法要を起こしたことで、信心の硬い者がこれを飲めば重い病気も治り、不信の者が飲めばたちまちしゃっくりが出る、という天然の奇特がありました。そこから、その滝を『しゃくり滝』と言うとのこと。（吹野寺略縁起より）

言い伝えには諸説ありますが、この滝は、第2次世界大戦前までは猿田彦神社の近くにあり、滝の水をやかに汲んで飲んでおられた方もいらしたとのことですが、その後、その滝は土砂崩れにあって、無くなってしまったということです。

このように、この地に残る浪漫あふれる言い伝えは諸説あるにしても、これを後世に伝えていくことが、現在の私たちにとって必要なことではないかと思います。（田嶋 則次氏）

泰澄大師とは

泰澄大師とはどのような人物だったのでしょうか？

最も有名な業績は、白山の初登頂です。その他にも、平泉寺、那谷寺等の開山や粟津温泉の発見など、「越の大徳」といわれるほど、徳の高い人でした。



泰澄は白鳳11年6月11日（682）越前麻生津で生まれました。小さい時から一風変わった性格で、毎夜のように家を抜け出して越知山の洞穴にかくれてなにやら盛んに唱えた後、頂上めがけて登って行きました。そして、朝には家に帰っていたのですが、一晩で約40kmの距離を往復していたのです。その後、悟りの境地に到達し、松葉を食い仙人のような生活をしていたということです。（よみもの福井史より）



泰澄大師坐像（国指定重要文化財 文化庁蔵）

整備した階段、雪の中に..!

整備した階段を田嶋実行委員長が歩いてみました。
人間以外に猪や鹿たちも階段を使っていました。



昨年整備した階段を使って、今年初めて雪の中を城山山頂まで登ってみました。

なんと、そこにはたくさんの猪や鹿たちの足跡が残っていて、中には、人間の大人の足よりデカイ猪の足跡もありました。

あとここに、蝶々が飛んでいれば、縁起の良い「猪鹿蝶」で、雪解けとともに開運が舞い込んできそうな気がしました。

今年も頑張るぞ!



これからの活動予定

これからの古街道整備計画、役員会等の活動及び開催予定についてお知らせします。

整備計画

- 3月18日(土)
案内板の設置及び登山道の点検
- 3月9日(木)・3月下旬
足羽高校登山道の倒木及び猪等被害状況と整備内容の確認
- 2月26日(日)・3月5日(日)
南居ルートの整備

役員会等

- 3月16日(木) 19:00
社南公民館
- 総会については、5月上旬(ゴールデンウィーク後)を予定しています。



編集後記

畑に残っていた雪も解ける時期を察したのか、いつの間にか黒い地面が顔を出してきました。もうすぐそこまで春が来ていることを感じる時期です。

古街道復元PJ会も、山の色の白が終わるのを待って、早速、今年の作業が始まります。昨年やり残した個所の整備を開始する予定です。

春の山は、きっと今年も私たちを温かく迎え入れてくれて、1年間の安全を見守ってくれることだろうと思います。(thousand fall)



(バックナンバー)